

市内中小企業景況調査結果（平成30年4～6月）

小幅ながら悪化、来期も同様に推移するものと予想

下関商工会議所

本所では地域の景況・企業の動向を把握するため、四半期ごとに市内の中堅・中小企業50社を対象とした景況調査を実施しています。このたびは第1四半期（平成30年4～6月期）の調査結果を報告します。

- 調査時点

平成30年5月15日

- 調査対象時期

平成30年4～6期状況、平成30年7～9期見通し

- 調査回答企業数

43社：建設業7社、製造業7社、卸売業8社、小売業10社、サービス業11社（回収率86%）

- D I（DIFFUSION INDEX 景況判断指数）

好転の回答割合から悪化の回答割合を差し引いた数値

【概況】

市内中小企業の景況をみると、前期（30年1～3月期）では全般的に悪化傾向にあったものの、今期（30年4～6月期）の全産業合計の業況D I（前年同期比）では、業種によりバラツキはあるものの小幅ながら悪化となった。

先行きについては、全体としては引き続き小幅の悪化を予想している。業種別にみると、小売業では好転するものの、建設業・製造業では横這い。卸売業・サービス業では悪化するものと予想している。

- 今期（30年4～6月期）の状況（前年同期比）

全産業合計の業況D I（前年同期比）は、前期（30年1～3月期）と比較して2.8ポイントと小幅ながら悪化し、D Iでは $\Delta 18.6$ とマイナス域での推移が続いている。

業種別の業況をみると、建設業では14.3ポイント上昇しているが、D Iでは $\Delta 14.3$ とマイナス域での横ばいとなっている。小売業でも同様に5.0ポイント上昇しているものの、D Iでは $\Delta 20.0$ とマイナス域で推移している。卸売業では1.8ポイント悪化とほぼ横ばいで推移、サービス業では9.1ポイントの低下となったものの、D Iでは ± 0.0 にとどまっている。製造業では17.1ポイントの悪化となり、D Iでも $\Delta 57.1$ とマイナス幅が拡大している。

〔売 上〕

全産業で見ると、前期（30年1～3月期）と比較して9.3ポイント上昇しているものの、D Iでは△16.3と引き続きマイナス域での推移となっている。

業種別にみると、建設業では57.2ポイントの大幅な上昇となり、D Iでも14.3とプラス域に転じている。小売業では15.0ポイント、卸売業でも12.5ポイントそれぞれ上昇しているものの、D Iでは△10.0、△25.0と引き続きマイナス域にとどまっている。サービス業では前期と変化なくD Iは±0.0となっている。製造業では31.4ポイントの大幅な低下となり、D Iでも△71.4へと悪化している。

〔採 算〕

全産業で見ると前期（30年1～3月期）と比較して、1.9ポイントとほぼ横ばいとなり、D Iでは△26.2とマイナス域での推移が続いている。

業種別にみると、建設業では14.2ポイント上昇しているものの、D Iでは△42.9にとどまっている。小売業でも7.5ポイント上昇しているものの、D Iでは△30.0となっている。サービス業と卸売業では変化なく、D Iは夫々0.0、△28.6となっている。製造業では42.9ポイントと大幅に低下しており、D Iでも△42.9へと悪化している。

〔資金繰り〕

全産業で見ると前期（30年1～3月期）と比較して、13.8ポイント上昇し、D Iでは△9.3まで戻している。

業種別にみると、サービス業では18.2ポイント上昇し、D Iでも9.1とプラス域に転じている。小売業では27.5ポイント上昇しているものの、D Iでは△10.0とマイナス域にとどまっている。卸売業でも12.5ポイント上昇し、D Iでも±0.0まで戻している。製造業では25.7ポイント上昇し、D Iでは△14.3まで戻している。建設業では14.3ポイント低下し、D Iでも△42.9とマイナス幅が拡大している。

●来期(30年7～9月期)の見通し（前年同期比）

全産業合計の業況D Iは今期（30年4～6月期）と比較して4.7ポイント低下し、D Iでは△23.3と小幅ながらマイナス幅が拡大するものとみている。

業種別にみると、小売業では10.0ポイント上昇し、D Iでも△10.0まで戻る見込み。建設業と製造業ではともに変化ないものの、D Iでは製造業で△57.1と悪化のまま推移するものとみている。サービス業では9.1ポイント低下し、D Iでも△9.1とマイナスに転じる見込み。卸売業では25.0ポイント低下し、D Iでは△37.5まで悪化するものとみている。

〔売 上〕

全産業で見ると、今期（30年4～6月期）と比較して11.6ポイント低下し、D Iでは△27.9までマイナス幅が拡大する見通しとなっている。

業種別にみると、小売業では、20.0ポイントプラスとなり、D Iでも10.0とプラス域に転じている。製造業では変化なく、D Iでは△71.4と大幅なマイナスのままの推移となっている。サービス業では9.1ポイントの低下となりD Iでは△9.1となり、卸売業では12.5ポイント低下

し、D I では△37.5 と悪化超のまま推移する見込み。建設業では71.4ポイントと大幅に低下し、D I でも△57.1 とマイナスに転じるものとみている。

〔採 算〕

全産業で見ると、今期（30年4～6月期）と比較して7.2ポイント上昇するものの、D I では△19.0にとどまる見通しとなっている。

業種別にみると、建設業では42.9ポイントと大幅に上昇し、D I でも±0.0まで回復する見込み。小売業でも10.0ポイント上昇するものの、D I では△20.0にとどまる見込み。製造業と卸売業では変化なく、D I では製造業△42.9、卸売業では△28.6 とマイナス域で推移する見込みとなっている。サービス業では9.1ポイント低下し、D I では△9.1 とマイナス域になる見込み。

〔資金繰り〕

全産業で見ると、今期（30年4～6月期）と比較して4.7ポイントと小幅ながら低下し、D I では△14.0 とマイナス域での横ばいを見込んでいる。

業種別では、小売業では10.0ポイント上昇し、D I でも±0.0まで戻す見込みとなっている。製造業と建設業では変化ないものの、D I では製造業が△14.3となるものの、建設業では△42.9 と悪化超のまま推移するものと見込んでいる。サービス業では18.2ポイント低下し、D I では△9.1 とマイナス域に転じる見込み。卸売業でも12.5ポイントの低下となり、D I では△12.5 と再びマイナス域になるものと見込んでいる。

●設備投資

設備投資の実施状況を見ると、今期（30年4～6月期）は23.3%の実績となり、前年同期（29年4～6月期：25.0%）や前期（30年1～3月期：28.2%）と同様に比較的活発な状況が続いている。業種別で見ると、建設業では57.1%、サービス業では27.3%と活発化している。来期については全体で17.9%とやや沈静化する見込みとなっている。

●経営上の問題点

建設業では、前回1位の「従業員の確保難」が圏外となり、前回2位の「材料価格の上昇」が1位となっている。2位には「熟練技術者の確保難」が入り、3位には前期と同様に「下請単価の上昇」が入っている。製造業では前回と変わらず「需要の停滞」が1位となり、2位には「製品ニーズの変化への対応」が入り、3位は変わらずに「原材料価格の上昇」となっている。卸売業では1位「需要の停滞」、2位「仕入単価の上昇」に変化なし。小売業では、前回1位の「需要の停滞」に加え、「購買力の他地域への流出」、「消費者ニーズの変化への対応」も1位となっている。サービス業では、圏外から「需要の停滞」が1位となり、2位には前期1位の「利用者ニーズの変化への対応」と、前期の2位の「熟練従業員の確保難」、そして「従業員の確保難」が入っている。

業 種 別 D I 値 表 平 成 30 年 4 ～ 6 月 期

	回答企業数	業 況			売 上			採 算			資金繰り			採算(今期経常利益)
		①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	
全 産 業	43	△15.8	△18.6	△23.3	△25.6	△16.3	△27.9	△24.3	△26.2	△19.0	△23.1	△9.3	△14.0	△4.8
建 設 業	7	△28.6	△14.3	△14.3	△42.9	14.3	△57.1	△57.1	△42.9	0.0	△28.6	△42.9	△42.9	△28.6
製 造 業	7	△40.0	△57.1	△57.1	△40.0	△71.4	△71.4	0.0	△42.9	△42.9	△40.0	△14.3	△14.3	△33.3
卸 売 業	8	△14.3	△12.5	△37.5	△37.5	△25.0	△37.5	△28.6	△28.6	△28.6	△12.5	0.0	△12.5	25.0
小 売 業	10	△25.0	△20.0	△10.0	△25.0	△10.0	10.0	△37.5	△30.0	△20.0	△37.5	△10.0	0.0	△10.0
サービス業	11	9.1	0.0	△9.1	0.0	0.0	△9.1	0.0	0.0	△9.1	△9.1	9.1	△9.1	9.1

- ① 前々年同期(平成29年1月～3月)と比較した前期(平成30年1月～3月)の状況
 ② 前年同期(平成29年4月～6月)と比較した今期(平成30年4月～6月)の状況
 ③ 前年同期(平成29年7月～9月)と比較した来期(平成30年7月～9月)の見通し

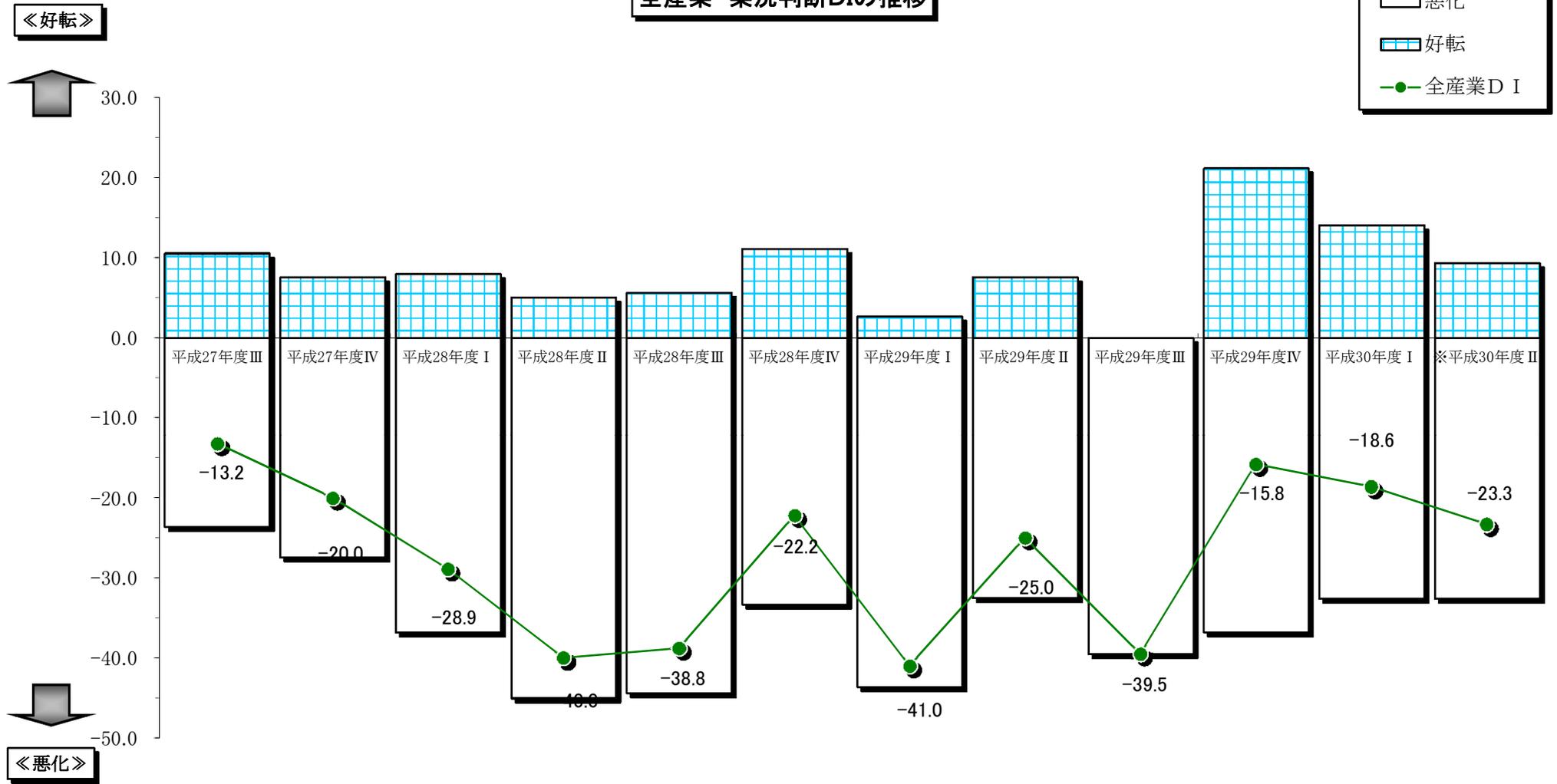
直 面 し て い る 経 営 上 の 問 題 点

産 業	1 位	2 位	3 位
建 設 業	材料価格の上昇	熟練技術者の確保難	下請単価の上昇
製 造 業	需要の停滞	製品ニーズの変化への対応	原材料価格の上昇
卸 売 業	需要の停滞	仕入単価の上昇	販売単価の低下・上昇難／従業員の確保難
小 売 業	購買力の他地域への流出／需要の停滞／ 消費者ニーズの変化への対応	大型店・中型店の進出による競争の激化	店舗の狭隘・老朽化
サービス業	需要の停滞	利用者ニーズの変化への対応／熟練従業員の確保難／ 従業員の確保難	材料等仕入単価の上昇

設備投資を今期実施した 23.3 %

設備投資を来期計画している 18.6 %

全産業 業況判断DIの推移



【業況判断DI】

〈好転〉、〈不変〉、〈悪化〉の選択肢のうち、〈好転〉と答えた企業の割合から〈悪化〉と答えた企業の割合を差し引いた値。

I…4～6月期、II…7～9月期、III…10～12月期、IV…1～3月期

※前年度同期（平成29年7～9月）と比較した来期（平成30年7～9月）の見通し